「視力50万の瞳」が捉えた「ソンブレロ銀河」の中心に潜む超巨大ブラックホールの周辺構造



日本天文学会 秋季年会 記者発表 2013年9月9日

秦 和弘(研究代表者)

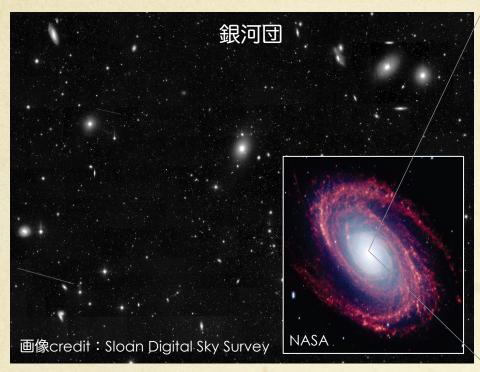
国立天文台/イタリア国立宇宙物理学研究機構/日本学術振興会特別研究員

研究グループ同席者: 永井洋(国立天文台)

本研究の概要

- ソンブレロ銀河の中心に潜む「草食系」超巨大ブラックホール(BH)の周辺構造を、位相補償VLBI技術を駆使して高感度・超高解像度観測
- すばる望遠鏡やハッブル宇宙望遠鏡の100倍以上 細かい解像度(視力)でソンブレロBH周辺構造を 検出・撮影することに世界で初めて成功。更に、 BHから南北2方向に向かってガスが「噴出」する 様子を鮮明に捉えた
- 巨大BHからガスが「噴出」するメカニズム解明に向けた手がかりとなると共に、「ブラックホール本体の直接撮影」実現に向けて大きな弾み

巨大ブラックホール





- 多くの銀河の中心部には超巨大ブラックホールが存在 (太陽質量の100万~100億倍)
- ブラックホール(BH)とは強い重力場によってあらゆる物を吸い込む高密度天体
- 巨大BHの周辺構造を観測し、活動メカニズムを解明することは現代天文学の最重要課題の1つ

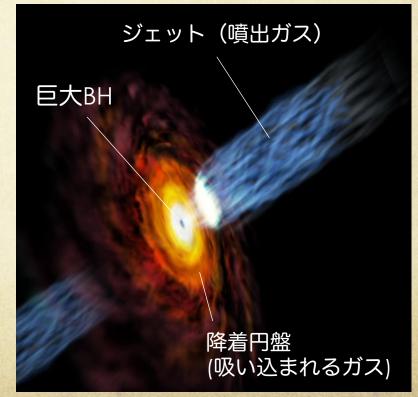
「肉食系」巨大ブラックホール



- NASA and the Hubble Heritage Team
- O BH自身は見えずとも、周辺の高エネルギー現象をもとにBHの性質を研究可能
- 周囲(観測者)への猛烈な自己アピール → 「内食系」

- 一部の巨大BHは極めて激しく活動
- 物質を吸込むだけでなく、光速の 99%以上の速度で、数千~数万光 年に渡ってガスを噴出(ジェット)

「肉食系」巨大BH M87の想像図 (研究チーム2011年 Nature 記者発表資料より)



しかし巨大BHの多くは「草食系」?

- 宇宙に存在する大多数の巨大BHでは大 規模なジェットが未だ見つかっていない
 - 自己アピール控えめ「<mark>草食系</mark>」
 - 私たちの住む天の川銀河の中心の巨 大BHもこの仲間

光度や活動性が弱いものが多いため観測が難しく、この種のBHの周辺構造は肉食系に比べあまりよくわかっていない

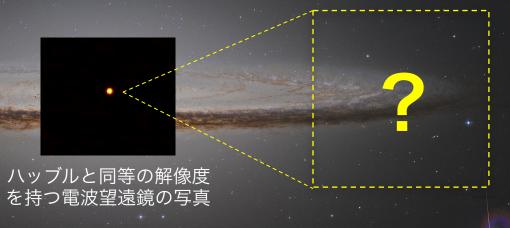


今回の研究チームの目標

宇宙の多数派を占める「草食系」BHの生態を明らかにしたい。ジェットは肉食系だけに存在する特別な現象なのか?それとも草食系にも存在するのか?BH活動メカニズムを解明する上で長年に渡る疑問

ソンブレロ銀河 (M104, NGC4594)

- 地球から約2900万光年の距離にある大変有名な渦巻銀河
- 中心に太陽質量の約10億倍の草食系BH(宇宙最大クラス)



- 草食系の代表格。中心部の光度は微弱で点源状、ブラックホール周辺の詳しい構造は未だよくわかっていなかった
- 「BHに肉薄する高い解像度(視力)」と「微弱 な信号を鮮明に検出すること」が必要

人類最高の「瞳」: VLBI とは

~ ブラックホールごく周辺まで直接迫ることができる唯一の観測技術 ~

実効口径約8000kmの巨大電波望遠鏡



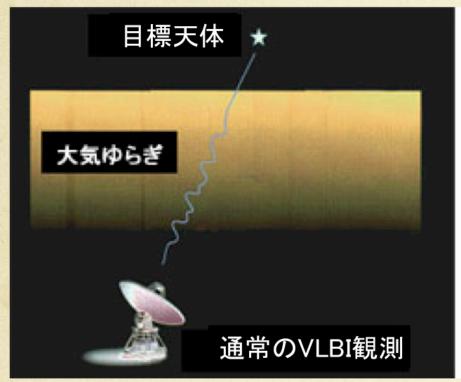
今回用いた世界最大級のVLBI観測網「VLBA」 全米に散らばる 1 0 台の電波望遠鏡から構成

- 超長基線電波干渉計 (Very Long Baseline Interferometer)
- ・ 各地の電波望遠鏡を繋ぎ、地球サイズ の実効口径を持つ巨大電波望遠鏡を実 現する技術
- あらゆる天文観測装置の中で圧倒的な 解像度を実現

	口径 D	波長λ	解像度 (λ/D)	視力
人間の瞳	約 3mm	約550nm	約 30秒角	約2
すばる望遠鏡	約8m	約2.4µm	約 0.06 秒角	約1000
ハッブル望遠鏡	約 2.4 m	約550nm	約 0.05 秒角	約1200
VLBI	約 8000 km	約1cm	約 0.0003 秒角	約200000

表:解像度は口径と波長で決まる。電波のVLBIは波長が長いため不利であるが、実効口径の大きさで圧倒的な解像度を実現する。

位相補償VLBI手法





画像クレジット:国立天文台

- 目標天体と隣接する参照天体をほぼ同時に観測することで、地球大気によるゆらぎの影響を除去する技術
- 暗い天体からやってくる微弱な電波でも大気擾乱に埋 もれること無く鮮明に検出することが可能になる

観測結果

満月(0.5度角)



解像度約40倍

VLBI電波 5GHz (視力 約5万)

1 光年

10000 光年

VLBI電波 43GHz (視力 約50万)

更に約10倍

BHの 存在位置

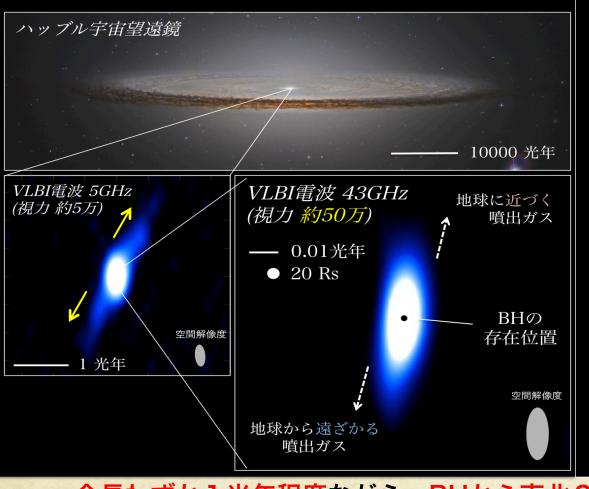
- BH周辺構造を約140マイクロ秒角(1度角の 2600万分の1)の解像度で検出・撮影に成功 0
 - ハッブル望遠鏡の約400倍の解像度
 - シュバルツシルト半径の数10倍の領域

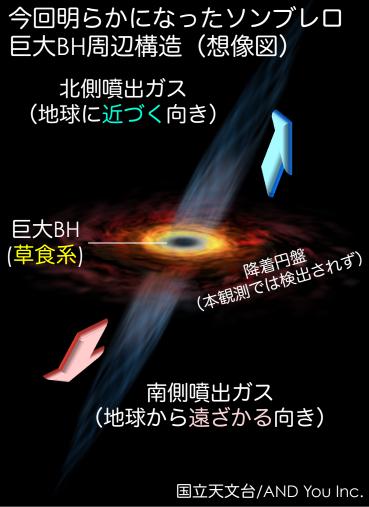
0.01光年

20 Rs

草食系BHにも噴出ガスを発見!

THE SOMBRERO GALAXY



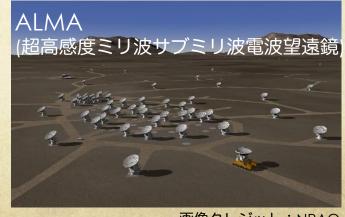


- 全長わずか1光年程度ながら、BHから南北2方向にガスが対称的に噴出 する様子を捉えた
- 輝度比などを調べた結果:光速の約20%以下程度の速度で北側成分が我々 に近づく方向、南側成分が遠ざかる方向に噴出していることまでわかった

本研究成果の意義

- 草食系BHにも小規模ながら ジェット(噴出ガス)が存在
 - ガス「噴出」は多くの巨大 BHが備える「共通能力」 であることを示唆
- しかしなぜ、どうやって噴出?強弱をもたらす原因は?
 - 詳しいメカニズム解明は本 研究だけではまだ不十分
- 吸い込れるガス(降着円盤) の性質も一緒に調べる必要
 - 現在ALMA望遠鏡(降着円盤 が検出しやすい波長帯での次 世代高感度電波望遠鏡)も用 いてBH周辺構造を更に詳し く観測中





画像クレジット:NRAO

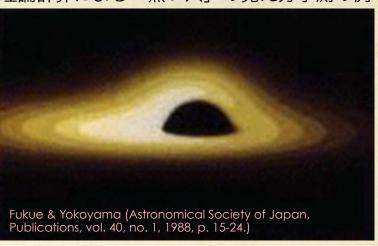
まとめ

- 宇宙の多数派を占める「草食系」巨大BH。その周辺構造は「肉 食系」に比べ未知な部分が多かった
- 「位相補償VLBI手法」を駆使することで、草食系の代表格「ソンプレロ銀河」中心の超巨大BHの周辺構造を高感度・超高解像 度撮影
- 巨大BHの周辺構造を約140マイクロ秒角(1度角の約2600万分の1、視力約50万)の解像度で検出・撮影に成功。ハッブル望遠鏡の約400倍の解像度。シュバルツシルト半径の僅か数10倍程度の領域に迫る
- BHから南北2方向にガスが噴出する様子を鮮明に検出
- ここまで詳細に草食系BHの周辺構造を明らかにした例は今回が 初めて
- 「ガス噴出」は多くのBHが持つ「共通能力」であることを示唆。 BHの活動メカニズムの解明に繋がる

今後の展望:視力「300万」の瞳へ



理論計算による「黒い穴」の見え方予測の例



- 「ブラックホール本体の直接撮影」:現代科学における究極的目標の1つ
- 世界中のミリ波サブミリ波電波望遠鏡をつなげて更に高い解像度(約20 マイクロ秒角)を得る国際VLBIプロジェクトが現在進行中
 - Event Horizon Telescope 「事象の地平線望遠鏡」
 - 研究チームを含め日本からも国立天文台を中心に参加
- 今回BHの僅か数十倍の領域まで撮影できた -> 実現に向けて大きな弾み
 - 今後数年以内にBH本体の直接撮影を目指す

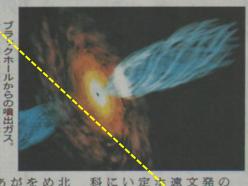
ご期待ください!



視力「50万」の生活

仙台から沖縄にある 新聞が楽々読める

ラックホール位置特定



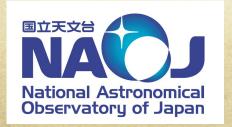
本研究成果のwebサイトはこちら

http://www.miz.nao.ac.jp/content/pr/pr20130909/c01

補足資料

研究チーム

- へ 秦和弘(国立天文台水沢VLBI観測所/イタリア国立宇宙物理学研究機構/日本学術振興会特別研究員)
- 土居明広(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所・助教/総合研究大学院大学)
- 永井洋(国立天文台チリ観測所・特任助教)
- 井上允(台湾中央研究院・特聘研究員)
- へ 本間希樹(国立天文台水沢VLBI観測所・准教授/総合研究大学院大学)
- Marcello Giroletti (イタリア国立宇宙物理学研究機構)
- O Gabriele Giovannini (イタリア国立宇宙物理学研究機構)











関連webサイト

- 研究チームの過去の関連研究(M87) 記者発表資料(2 011年9月 国立天文台)
 - http://www2.nao.ac.jp/~m87blackhole/
- o 国立天文台水沢VLBI観測所webページ
 - http://www.miz.nao.ac.jp/
- っ サブミリ波VLBI (Event Horizon Telescope) webページ
 - http://www.miz.nao.ac.jp/submilli/top/
- o ALMA望遠鏡 webページ
 - http://alma.mtk.nao.ac.jp/j/